

28班 ネットの過剰反応による炎上を防ぐために



先行研究

・スマホ、SNSの普及率が近年大幅に増加
→トラブルも増加

・CMの炎上取り下げが多数発生
ex)お母さん食堂...

些細なことに対して過剰な認識や批判をして、
祭りのように一気に炎上→匿名性

祭り型炎上

研究内容・目的

目的

ネット上で多発する祭り型炎上の現状の把握とこれからの
対策、SNSの正しい使い方の普及

研究内容

ネット上で過剰反応が起こる原因と対策の調査。
SNS上でのトラブルの原因追求と対策の調査。

仮説

1. ユーザー数が多く若者に人気があるSNSほど、
情報が速く広がることで祭り型炎上になりやすいのでは...

2. 過剰反応による炎上が発生するのは、ネット上
に実名が出ない匿名性というシステムが関連して
いるのでは...

3. 過剰反応が起こるのは、コメント欄などの同調
圧力が影響しているのでは...

調査・実験の方法

1. 調査

各SNSの利用率や身近な事例としての炎上や
SNSトラブルの実態について

2 実験

匿名性の炎上との関わり
同調圧力の影響を調べる実験的アンケートの実施

匿名と記名のアンケートで分け、口調や意見の変化
を調べる。同調圧力のアンケートは、被害者と加害者
それぞれを擁護するコメントがついたアンケート
を作り同調圧力が、実際に働くのかを調べる。

3. 実践

炎上の対策、SNSの利用に関する模擬授業を開催
中学生を対象としたもの

調査・実験の結果・考察

1. 各SNSの利用率と炎上件数（トラブルも）

炎上件数の莫大な量の情報を管理することが
できなかったためユーザー数との関係はわから
ず。中学生を対象としたアンケートからは、
90%以上が自分のスマホを所持している
約25%の人がアカウントの乗っ取りを経験
（グループラインなどでのいじめも）

2. 実験的アンケートの実施

①匿名の影響

（匿名）

肯定：気をつけて～、良かった～

否定：コロナ舐めてるやろ、どうでもいい

（記名）

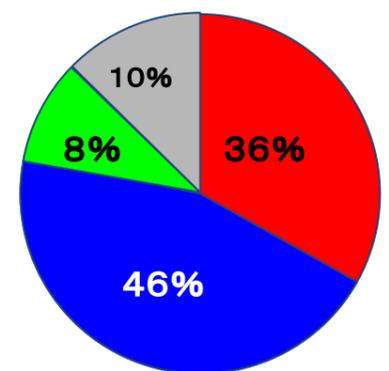
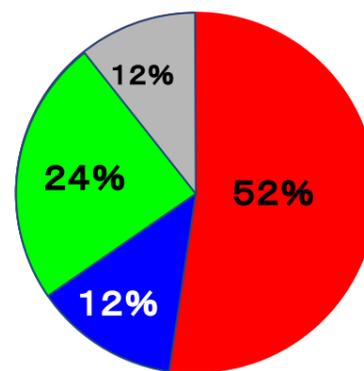
肯定：安心した、大丈夫ですか～

否定：知らねーよ、Bの体調は無視かよ

②同調圧力の影響

被害者擁護

加害者擁護



赤：生徒擁護 青：先生擁護

緑：どちらも悪い グレー：その他

3. 中学生を対象とした模擬授業の実施

5月2日に鶴ヶ谷中学校さんで実施予定もイン
フルエンザにより延期。現在日程調整中。
複数の学校での授業を企画。

まとめ

匿名性→口調に偏りが見られた

同調圧力→引っ張られた回答が多い割合に

どちらも炎上が起こる原因の一つである！

未然に炎上やSNSでの被害を知っておくことが
一番の対策になる！→模擬授業を通して行う

時間の限り多くの学校や人を対象に。

参考文献

・ <https://toyokeizai.net/170133> ・ <https://www.comnico.jp/we-love-social/sns-users> ・ <https://psych.doshisha.ac.jp/>